

令和7年度福島県産業資源循環事業企画運営業務仕様書（案）

1 委託業務名

令和7年度福島県産業資源循環事業企画運営業務（以下「本事業」という。）

2 業務概要

本事業は、福島県内の産業廃棄物の適正処理、リサイクルなどの資源循環を担う産業廃棄物処理業界の振興のため、産業廃棄物処理業界に対する県民の理解促進を図ることを目的に、共通のコンセプトのもと、次の(1)から(6)の取組（以下「各取組」という。）を実施する。

なお、各取組を有機的に結びつけて実施することによる相互作用を最大限発揮し、本事業の目的をより効果的かつ効率的に達成できるように運営するものとする。

さらに、各取組への参加等を促すため、県民における産業廃棄物処理業界への関心度が低いことを踏まえた戦略的な広報等を行うものとする。

【各取組に共通のコンセプト】

『産業廃棄物処理業界の普及啓発・理解促進』

福島県内では 4,000 以上もの産業廃棄物処理業者が産業廃棄物の収集運搬、処分等を通して県民の生活の安定や資源循環経済（サーキュラーエコノミー）の形成に尽力している。

しかしながら、このような産業廃棄物処理業者の社会的役割について、広く認知されているとは言い難く、また、県民における産業廃棄物処理業者の取組に対する一般的な認識は、「関心がない」または「不安を感じている」という状況である。

本事業では、産業廃棄物処理業者にスポットをあて、県民の生活や経済を支えている産業廃棄物処理業者の取組を広く普及啓発することで、「不安を感じるから」や「分からないから」という理由で産業廃棄物処理業者と距離をおいている県民との関係性を構築し、産業廃棄物処理業界に対する県民の理解促進を図る。

(1) 各取組の考え方等

- ・ 各取組間の有機的な繋がりによる相互作用を活かす。
- ・ 各取組間の有機的な繋がりによる相互作用を意識した業務実施体制及び事業実施スケジュールを構築する。

(2) ワークショップ企画・運営

ア 実施時期（予定）

令和7年7月から9月まで

イ 内容

- ・ 産業廃棄物処理業者の従業員等が、地域循環共生圏の考えを深め、県民に発信するためのワークショップを複数回（4回程度を想定）開催する。
- ・ 本ワークショップにおける成果は、(3)、(4)及び(6)の各取組において口頭発表や SNS を用いて情報発信するとともに、本事業以外における様々な場面での活用について考慮する。

ウ 対象者

産業廃棄物処理業者の従業員等 12 名程度（若手を想定）

(3) 集客イベント企画・運営

ア 実施時期（予定）

令和 7 年 7～12 月

イ 会場（予定）

県内 3 地方（浜通り、中通り、会津）

ウ 内容

道の駅や大型商業施設、駅前広場、商店街等の県民が自然と集まりやすい場所や、公共交通機関が利用しやすい場所を会場とすること。なお、市町村等が開催している地元イベントとの同時開催も可能とする。

エ 目標来場者数

のべ 5,000 人程度

- ・ 県民が産業廃棄物処理業界に関心を持つきっかけになるためのイベントにする。
- ・ 県民における産業廃棄物処理業界への関心度が低いことを踏まえた、戦略的な開催告知、実施内容の企画、イベント運営等を行う。
- ・ 主なターゲットは、小学校児童とし、一緒に来場する家族への訴求についても併せて考慮する。
- ・ 実施内容は、産業廃棄物処理業者によるブース出展、体験コーナー等を想定して、より多くの来場者を確保するための戦略について考慮する。
- ・ 関心度の高い SDGs と産業廃棄物処理を関連付けた実施内容を企画する。
- ・ (2) のワークショップの参加者によるプレゼンテーション等の成果発表の場を設け、ワークショップ参加者に発表を依頼する。
- ・ プレゼンテーションの際には、必要に応じて、資料を投影できる環境などを整備する。

エ ターゲット層

産業廃棄物処理業界への関心度が低い層（小学校児童及びその家族を想定）

(4) バスツアー企画・運営

ア 実施時期（予定）

令和 7 年 8 月

イ 訪問先

県内の産業廃棄物処理場

ウ 内容

- ・ 県民が産業廃棄物処理を理解するため、県内の産業廃棄物処理場を巡るバスツアーを開催する。
- ・ 訪問先は、県内の産業廃棄物収集運搬業者事業場、中間処理施設（再生処理施設）及び最終処分場を想定し、参加者に産業廃棄物処理の流れを実感させることを目的とする。
- ・ 中間処理施設（再生処理施設）では、産業廃棄物処理が循環型社会形成に重要な役割を担っていることを伝える。
- ・ 最終処分場では、再資源化されないものが埋め立てられるが、その容量には限りがあることから、リデュース、リユース、リサイクルの 3R が重要で

あることについて伝える。

- ・ 廃棄物処理法において、産業廃棄物が適正に処理される仕組みが整備されていることを伝える。
- ・ 実施回数は3回程度を想定しており、1回あたりの参加者数は30名程度を想定している。

エ ターゲット層

産業廃棄物処理業界への関心度が低い層（小学校児童及びその家族を想定）

(5) 開催告知・参加者募集

- ・ 産業廃棄物処理業界に対する関心度が低い現状を踏まえ、各種 SNS、テレビ CM、タウン情報誌、チラシ、ポスター等各種媒体を活用し、単に開催告知等を行うだけではなく、より多くの参加者を得るための仕掛けを告知に組み入れることにより、効率的かつ効果的な手法を採用した開催告知等の広報を戦略的に行う。
- ・ (2)から(6)の各取組の有機的な結び付きを意識した広報を行う。

(6) その他取組

- ・ 本事業の周知や事業活動に活用するためのキャラクターを作成する。
- ・ (1)から(5)までの他、本事業の目的を達成するための取組を実施する。

3 提案内容

次の(1)から(6)について、本事業の目的を達成するために実施する内容を提案すること。

なお、提案内容は、(6)アの業務経費積算の金額の範囲内で実現できるものとする。

(1) 各取組の考え方等

- ア 各取組間の具体的な有機的な繋がり及び期待できる相互作用
- イ 業務実施体制
- ウ 事業実施スケジュール

(2) ワークショップ企画・運営

- ア テーマ（30字以内で提案）
- イ 運営体制（講師、ゲスト、事務局人員体制等を提案）
- ウ 実施方法、実施回数及び実施回毎の実施内容
- エ 集客イベントでのプレゼンテーション実施内容
- オ 本事業の終了後における参加者の活躍の場（想定を提案）
- カ その他、本事業の目的を達成するために有効な事項

(3) 集客イベント企画・運営

- ア テーマ（30字以内で提案）
- イ 会場
- ウ 実施内容（ブース出展及びその他）
- エ より多くの来場者を確保するための戦略
- オ その他、本事業の目的を達成するために有効な事項

(4) バスツアー企画・運営

- ア テーマ（30 字以内で提案）
- イ 訪問先の選定基準及び選定方法
- ウ 実施回数及び実施回毎の内容
- エ 参加を促すための仕掛け
- オ その他、本事業の目的を達成するために有効な事項

(5) 開催告知・参加者募集

- ア ワークショップ参加者の募集（選定）方法
- イ 集客イベントの目標来場者数を達成するために実施する広報戦略
- ウ バスツアー参加者の募集（選定）方法
- エ 本事業における各取組を有機的に結び付けるために実施する広報戦略
- オ その他、本事業の目的を達成するために有効な事項

(6) その他

- ア 業務経費積算
- イ 類似業務受託実績
- ウ その他、本事業の目的を達成するために有効な事項
- エ キャラクター

4 提出書類

- (1) 業務着手報告書（様式第 1 号）
- (2) 業務完了報告書（様式第 2 号）
- (3) 成果品
成果報告書（任意様式で紙及び電子媒体で提出）

様式第 1 号

令和 年 月 日

業務着手報告書

福島県知事 内堀 雅雄

会社名

代表者名

令和 年 月 日付けで契約した下記業務について、令和 年 月 日に着手したので、報告します。

記

1 契約期間

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日

2 業務名

令和 7 年度福島県産業資源循環事業企画運営業務

令和 年 月 日

業務完了報告書

福島県知事 内堀 雅雄

会社名

代表者名

令和 年 月 日付けで契約した下記業務について、令和 年 月 日に完了したので、報告します。

記

1 契約期間

令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日

2 業務名

令和 7 年度福島県産業資源循環事業企画運営業務

3 業務実績